

令和 6 年度第 3 回市貝町学校規模適正化検討委員会会議録

1 日時

令和 6 年 11 月 25 日（月）

午後 6 時 00 分 開会

午後 8 時 00 分 閉会

2 場所

市貝町役場 大会議室

3 出席者

別紙名簿のとおり

4 欠席者

市貝町立小貝小学校 PTA 会長：皆川 裕一

5 議事

ワークショップ

(1) 提言書(案)について

①小学校の統合の是非とそのあり方について

②小学校と中学校との関係性とそのあり方について

③①、②を基にした学校の位置について

6 議事の内容

1.開会

川上課長（進行）

2.委員長あいさつ

佐藤委員長【あいさつ】

3.議事内容 議事進行：委員長

○議事内容

(1) 提言書（案）について

佐藤委員長

議事内容の第 1 「提言書（案）について」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

事務局

【荒川係長説明】

佐藤委員長

事務局より説明があったが、ご意見・ご質問があったら、お聞きしたい。
(意見なし)

ワークショップ

A グループ意見

①小学校の統合の是非とそのあり方について

- ・人口の減少は目に見えている。
- ・これから小学校へ上がる子ども達の保護者へアンケートをする必要がある。
→令和4年度に実施。その際約1/4が統合はやむなしの回答となった。
- ・スクールバスを使用しての通学路の安全性の担保、通学への支援があれば統合の支持者も増えるのではないか。
- ・町には3つの学童があり小貝小学校の3分の2、市貝小学校の100名程度が学童を利用している。統合をした際には、学童までの動線をどうしていくのか。また、帰りのスクールバスを使用している児童が2、3人程度しかいない。
- ・旧小貝小学校は現在普通財産となり、NPO法人羽ばたきが1階部分を使用しているが、2階部分は使われていない。統合した際に残る校舎については企業などに活用してもらえるとありがたい。
- ・市貝小学校はみどりの森で、赤羽小学校はホープタウンで児童数が増えていたが、それは一過性のものである。
- ・小貝小学校は設立から20年経ったが、木造校舎であるため傷みが出てきている。長寿命化をすることはできるが、コストがかかる。
- ・小貝小学校は地域教育、赤羽小学校はインクルーシブ教育、市貝小学校はICT教育を推進しているが、統合をしたらその学校の個性が壊れないか不安がある。
- ・那須塩原市の箒根学園など既存の学校を使って統合をした際は、学校の間取りなど自由度が下がる。
- ・統合の形として義務教育学校や小中一貫校があるが、町として子ども達の教育方針をどうしていくのが大切。それが決まらないと学校の規模が決まらない。
- ・1学年1学級では、何かがあった時に逃げ口がない。クラス替えができるようになるのが最良。
- ・教育の中身と人数は絡んでいるが、人数が教育の善し悪しに影響を与えることはない。
- ・現在市貝町の教職員は100名程度うち40人弱が市貝町の会計年度職員である。複式学級になると授業の準備が倍になり教職員の負担となる。統合をしたら教職員

の負担が減るのではないかと考えている。

- ・来年、再来年いきなり統合しますではなく、毎年アンケートを取り少しずつ詰めていくのが良いのではないか。
- ・大まかなスケジュールを示せば、保護者等の心の準備ができると思う。

②小学校と中学校との関係性とそのあり方について

- ・この段階ではなく、状況等を注視したうえで今後判断していく。

③①、②を基にした学校の位置について

- ・地域や保護者の意見で大きく変わるので、この場ではなくアンケートなどでしっかり吸い上げてから判断する。

B グループ意見

①小学校の統合の是非とそのあり方について

- ・この先統合はやむなしなので、財政的にも小中学校を1校にまとめた方がよい。
- ・小学校3校を1校にまとめるべき。
→今ある学校を改装していくよりも、早いうちに新設した方が費用はかからないと思うし、備品等も今使っているものを使用すればコストを抑えられるのでは。
新しい学校の方が子ども達も行きたくなり、市貝町の魅力にもなる。
- ・将来的には小学校を1校へ統合することは避けられないが、いつになるのかはわからない。
市貝小学校と赤羽小学校は古く、小貝小は比較的新しいため、まずは小貝小学校を小規模校として残しつつ、統合を進めていくのもよいのではないか。
また、小中学校でまとめるのであれば、市貝中学校の敷地を利用すれば無駄にならないと思う。
- ・すぐに統合するというのは難しいが、10～30年先ではやはり統合を考えていく必要がある。
質の高い教育には設備が整っている必要があるし、コミュニケーション能力を養うために人数も多い方がよい。
特別支援学級がないのは小貝小学校のみ。小貝小学校と赤羽小学校は複式学級になる恐れがある。
→ある程度人数がいなければこれまで通りの教育や柔軟で丁寧な教育が実施できない。しかし昨今では特別支援学級等の希望も増加傾向にある。
→そのため、教育の質を落とさない統合の仕方を考えていかなければならない。
茂木町の須藤小中学校を参考にして、段階的に統合を進めてみては。
- ・10～20年先を考えると、小学校を1校に統合、もしくは市貝小学校と小貝小学校

を統合することも考えられるが、現状がずっと続くのであれば、今のままでもいいと思う。市貝中学校は今のままでよい。

統合するのであれば、町の財政状況を鑑みて、今ある建物や土地を活用していくべき(学校を建て替えるなら公民館を活用するなど)。とりあえず 10 年ほどは今のまま様子見して、元々あるものをやりくりしながら延命する形でもよいと思う。

- ・新たに学校を建てるのにも時間がかかる。数年は今のまま維持できるかもしれないが、将来的に統合は避けられない。それならば、早い段階で小学校を 1 校へ統合すべき。維持費よりも、新築費の方が費用を抑えられるのでは。

加えて、スクールバスの利用者にとっては、統合しても抵抗はないのでは。

②小学校と中学校との関係性とそのあり方について

- 小中学校をまとめて義務教育学校にするべき。

→義務教育学校だと、県からの補助金も増える。(1/3→2/3)

今後の維持費を削減できるし、先延ばしにせず今新設するのを決断すべき。

- 小学校と中学校は分けるべき。

- ・ 1 つの設備や場所を共有するのは限界がある。

→グラウンドは広い方がのびのびできる。校舎も、手すりの高さなどの安全面で児童生徒が同じ施設で過ごすのが難しい場合も。

小学校だけでなく、市貝中も改修の必要があるのでは。

- ・小学校と中学校、それぞれの教育の文化や環境がある(6 年生が責任感を持って 1 年生の面倒を見る、中学生同士の先輩後輩関係など)。

→小中学校が一緒になると、それらが損なわれる。また、小学校から中学校に上がる際の気持ちの切り替え等も必要なのでは。

- ・統合や義務教育学校を同時に考えていくと混乱するので、小中施設一体型で統合を進めてみては。

→小中学校同士が近くにある環境で新設すれば、教員同士の連携が密になり協力等もしやすい。加えて、施設はそのまま、義務教育学校への切り替えも可能。

- ・小学校と中学校の教員免許は別なので、それぞれの専門の先生が、それぞれの学校で教育を行った方がよいと思う。

③①、②を基にした学校の位置について

- ・保護者の不安や混乱を招くため、明確な場所は提言書で明言しない方がよいと思う。

場所は、敷地が一番広いため市貝中学校を利用してみては。

- ・小貝小が新しいので、そこへ小学校を一体化すればよいのでは。グラウンドは、第 2 グラウンドを作れば利用できる範囲が広がる。

- ・災害から守れる安全な場所にすべき。
→学校は避難所の役割も担っている。水害や地震等から安心安全に避難できるかどうかを考慮すべき。東日本大震災での被害から市貝中学校は土壌が弱いと思われるので、避難所として安心して利用できる場所。
- ・費用削減のため、グラウンドがすでにあるところを活用すべき（北運動場など）。
- ・地域との繋がりがある（温泉や図書館等）公民館付近か広い市貝中学校の敷地が良いと思う。
- ・避難所としての役割が果たせるかというのと、児童生徒が十分に活動できる広さを考慮すべき。統廃合の仕方では場所が変わるのでは。

○参考資料にある「統廃合等のパターン」について

- ・町内全体を義務教育学校として統合かつ小規模校新設のパターンは現実的でない。小学校を全校統合と町内全校を義務教育学校として統合が現実的では。
→もし小学校は小規模校に通って、中学校から義務教育学校に進学する場合、それは可能なのか？
義務教育学校は通常の学校と教育課程が異なる。
学習内容が中学校 1 年＝義務教育学校 7 年で進んでいるとは限らない。
→町内全体を義務教育学校として統合かつ小規模校新設のパターンにするならば、学校の制度をしっかりと検討しなければならない。

佐藤委員長

（住宅団地等の）大規模誘致をする以外に子どもが大幅に増えることはまずないと考えられます。また、資料に出ていた耐用年数を見ると（学校の建物的な維持には）危ない状況。本来なら 5 年前くらいに検討を始めなくてはいけなかったと考えられます。市貝町の一般会計を見た際、補填できるか計算したところ介護の負担率を 5 割まで上げれば、現状の学校は維持できる可能性もある。が、そこまで維持すべきかどうか。この会は学校規模適正化検討委員会であり出すとしても、中心となる方針を出すまでがこの委員会の役割だと思います。また、提言書（案）の『将来を展望としたあり方』に皆さんが言っていたことが載っています。更に具体的なことについて述べるのが次の段階かと思いますが、その時にお金をどのくらいかけてどうしていくのかが入ってきます。それに合わせて学校の仕組みをどう変えていくのか。地域性や文化どちらも守ろうと思えば守れます。少人数教育など色々な教育体制があります。教員を加配しても、副担任を設定してもいいです。そうすると学習の進度別のクラス設定や縦割りのクラス設定なども変わってきます。

統廃合には、子どもに投資していくんだという強い意志が首長にないと話が進みません。色々なものをくみ取りながら、大きく進んでいくのが良いと思います。

————協議事項（1）終了————

5.その他

特になし。

6.閉会